

時空超えた出会いの場 充実図る

図書館長就任にあたって

古閑 陽一

特命副学長の古閑です。4月から図書館長を兼務しています。どうぞよろしくお願いいたします。また、8年間館長を務めてこられた飯山先生、本当にご苦勞様でした。

私自身は、これまで司馬遼太郎や吉川英治の歴史小説や、城山三郎の経済小説などが好きで、よく読んでいました。

本のいいところは、自分が知り得ない時間や空間を超えた世界に入り込むことができるということです。特に、幕末から明治、そして昭和にかけて現在の日本を創ってきた偉人たちの活躍、苦悩に触れてきたことが、今思うと、公務員という自身の職業選択に何かしらの影響を与えたのかもしれない。

本学の図書館は、従来の紙の本だけでなく、電子ブックや電子ジャーナル、動画のデジタル資料まで幅広く利用できるハイブリッドな図書館です。今後もデジタルコンテンツの充実や、機関りポジトリ等の研究成果のオープン化等に取り組んでいきます。

是非、こんな図書や資料が欲しいなどのリクエストをどんどんお寄せ頂き、教職員や学生の皆さんと共にある図書館を目指していきたいと考えています。



「図書館のマスクットキャラクター「ホカポン」を手にする筆者」

いよいよ6月からは、21時までの開館となり、「私の部屋でランチを」「サイエンスカフェ」も始まります。

学科によって利用状況に大きな差が出ていますので、是非この機会に、時空を超えた出会いを求めて図書館に一度足を運んで頂きたいと思えます。

図書館への様々なリクエストと併せて、ホカポン、職員と共に心からお待ちしております。

閉館 午後9時に延長

3年3カ月ぶり通常開館に

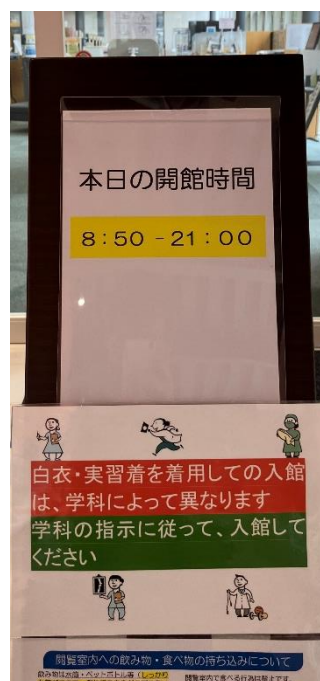


図書館だより

6月から図書館の閉館時間が「午後7時」から新型コロナウイルス禍以前の「午後9時」に延長されました。感染状況が落ち着きを見せ、学内警戒レベルが「1」に引き下げられたことを受けた措置です。

新型コロナウイルスの感染拡大により、大学の登学禁止の時期を経て、再開後は、原則として午後5時で閉館。例外的に国家試験前だけは同7時まで延ばしていました。

「午前8時50分～午後9時」の通常開館は、3年3カ月ぶりとなります。大学院生らからも強い要望があったということです。ただ、夜間利用できた時代を知らない学生がほとんどあって、利用者はまだまばら。山崎課長は「図書館が通常の姿に戻りホッとしています。学生の皆さんには時間を気にせず、自己学習や研究活動の場として活用していただきたいと思えます」と話していました。(NL編集部)



国会図書館資料が閲覧可能に

国立国会図書館がデジタル化した所蔵資料約207万点が、本学図書館でも閲覧できるようになりました。

国会図書館と「図書館向けデジタル化資料送信サービス」契約を結び、既にインターネット公開している資料55万点のほか、絶版等で入手が困難な資料約152万点を本学図書館の専用端末で見ることができます。

国立国会図書館は、国会に属する唯一の国立の図書館です。納本制度により国内の出版物を収集し、目録の作成や保存にあたっています。平成2年度末からは所蔵資料のデジタル化に取り組んでいます。



コンケン大学からの交換研修生（前列両脇の各2人）と記念撮影をする本学関係者

4年ぶり交換研修生ら5人来学

タイ・コンケン大 歓迎パーティーで交歓

タイ・コンケン大学の交換研修生4人と教員1人が来学し、6月2日（金）、1204・1205会議室でウェルカムパーティーが開催されました。新型コロナウイルス禍の影響で、交換研修生が本学を訪れるのは4年ぶりです。

榎原真二副学長の挨拶と乾杯の音頭に合わせ、会食がスタート。コンケン大学の教員と学生たちの自己紹介があり、「はじめまして」や「よろしくお願いします」と日本語で挨拶する姿も見られ

ました。続いて本学から交換研修生をサポートするサポート学生たちの紹介もあり、学生たちは初対面の交換研修生と積極的にコミュニケーションを取っていました。

期間中、研修生は講義参加、施設見学などを行います。13日（火）のさよならパーティーでプレゼンテーションを行い、14日（水）に帰国します。

1年次生を対象に全33講座が開講されている本年度の基礎セミナー。この中から、ユニークな講座を紹介します。

拝見
基礎セミナー

アロマセラピーと健康効果

看護学科
坂本 淑江講師

嗅覚反応でわかる性格、ストレス度

植物が持つ香りや成分から得られる効果効能は疫病の予防、健康増進に役立つとされています。本セミナーでは、芳香療法（アロマセラピー）について学習するとともに、「香り」が私たち人間に与える影響について考えていきます。

5月31日（水）の講義では、企業の健康管理センターで看護師として働きながら、嗅覚反応分析やヘッドスパ、ハンドトリートメントといった癒しメニューを展開されている西江恵氏をゲスト講師に招き、「嗅覚反応分析とロールオンアロマ作成～香りを知り、私をしる～」というテーマで講演していただきました。講演後学生たちは、実際に嗅覚反応分析を受け、ロールオンアロマづくりに取り組みました。

学生たちは、嗅覚反応分析として8種類の香りを嗅ぐことで自分の体質やストレス等をチェック。次に体質やストレス等を具体的に数値化し、自身の傾向をつかみます。こうして自分の今の状態にあった精油（香り）を選び、ロールオンアロマを作成しました。

嗅覚反応分析を実践した学生たちは「性格の特徴が当てはまりすぎていたことに、少し鳥肌が立ちました」「今の心や体の状態、ストレスがどのくらいあるかまで記入してあってびっくりしました」と驚きの感想を口にしていました。（入試・広報課）



ロールオンアロマづくりに取り組む学生たち

目指せ甲子園！ 高校球児の動作解析

熊本西高でデータ収集、説明会

熊本西高校の野球部員を対象とした試合中の動作解析の結果などをまとめ、夏の甲子園熊本大会の開幕を控えた5月29日（月）、副センター長の松原誠仁教授らが同校で24人の部員たちに報告しました。

この取り組みは、3月に熊本県高等学校体育学科・コース連絡協議会と締結した包括連携協定の一環です。

データ収集は、4月9日（日）にあった同校の練習試合で行いました。8人の投手からは投球時のアームスピードやアームスロットなど4項目のデータを取得。打者はバットの始動からインパクトまでの時間やスイング軌道など5項目の計測を行いました。得られたデータは、松原教授の指導で4人の学部生たちが集計にあたりました。

説明会では、データ集計を支援した大学院生の金井大慈朗さんが中心となって、レギュラー群と非レギュラー群の平均値を分かりやすくグラフ化するなどして説明。自分たちのパフォーマンスに直結するとあって、部員たちからは多くの質問が飛び出していました。



熊本西高校の野球部員に計測結果を報告する金井さん

野球部顧問の横手文彦教諭は「高校の現場では取得するのが難しいレベルのデータを計測していただいた。具体的な数字を基に生徒たちに指導ができるため、現場としては助かります」と喜んでいました。（入試・広報課）

SON・熊本30周年記念シンポジウムに参加した

久保下 亮 准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻）

「共生社会」目指しパラスポーツ支援

5月28日、熊本城ホールにて開催された「スペシャルオリンピックス日本・熊本（SON・熊本）30周年記念事業」のシンポジウムにシンポジストとして参加してきました。

スペシャルオリンピックスとは、知的障がいのある人にスポーツを通して社会参加を支援するために設立された団体で、その活動の輪は世界中に広がっています。

日本では1993年3月に初めてSON・熊本が設立され、「だれ一人取り残さない共生社会」を目指して、現在も熊本県内各地でスポーツプログラムを開催し、そこで活躍したアスリートが全国大会や国際大会へと出場しています。

今回のシンポジウムでは、各方面で活躍されている方々と一緒に登壇させていただきました。私は、パラスポーツとの出会いやパラスポーツの楽しさ、支援していくやりがい等について話しました。また、本学とSON・熊本とが協力しながら、アスリート支援を行う中で、学生に共生社会を実体験してもらい、誰もが相互に人

格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える社会形成に貢献できる人材育成につなげていきたいという思いも伝えてきました。



シンポジウムでパラスポーツとの出会いなどを語る久保下准教授（右）



本番前に高校生56人 予行演習

阿蘇市・阿蘇中央高校との包括連携協定に基づき本学が6月に実施する高齢者の健康測定会に向けた予行演習のため、同校2年生56人が5月31日(水)、本学を訪れました。

阿蘇市の高齢者健康測定会

「阿蘇プロジェクト」と銘打った測定会は、協定締結後初の取り組みで、6月14日(水)に同校で実施します。対象となるのは阿蘇地域に住む高齢者約50人で、運動、栄養、社会参加の3項目を測定。本学リハビリテーション学科3専攻の学生41人が測定にあたります。

予行演習では、生徒たちは2209M講義室で入試・広報課職員から本学の概要説明を受けた後、アリーナで学生たちから測定の手順などについて指導を受けました。

プロジェクトリーダーを務める松原慶吾准教授(同学科言語聴覚学専攻)は「地域課題である高齢者の健康寿命の延伸に対し、高校生と大学生が協力して地域問題の解決に取り組むこのプロジェクトを成功させたい」と、意気込みを語っていました。(入試・広報課)

本学の学生(左)から測定機器の扱い方などを習う阿蘇中央高校の生徒たち



会場で記念撮影する熊本県母性衛生学会学術集会の参加者たち



熊本県母性衛生学会学術集会に参加して

熊本県母性衛生学会学術集会が5月下旬、熊本大学病院医学総合研究棟で開かれました。集会に参加した助産別科学生の井上桃奈さんに報告してもらいました。

助産別科 井上桃奈さん

5月28日(日)、「助産学研究」授業の一環として、熊本県母性衛生学会学術集会に参加しました。テーマは「若者の将来のライフプランの実現と生まれてくる子どもの健康を支援する」でした。

プログラムは、一般演題(3題)の「乳頭トラブルを起こした母親への母乳育児支援」「帝王切開術施行患者の離床遅延に関わる因子の検討」「助産師が伝える思春期教育～小学校高学年への実践を通して～」のほか、会長講演「Fertility Knowledgeと学校性教育」、特別講演「すべての若者に届けたいプレコンセプションケア」、教育講演「胎児期から始まる健康づくり～DOHaD仮説～」から構成されていました。

特に、北海道大学大学院の前田恵理准教授による特別講演は、授業で性教育について学修した経験から特に関心をもって聴講。プレコンセプション期～妊娠期の健康づくりは、本人だけでなく子どもの将来の健康にも繋がるため、先を見据えた健康支援が必要だと学びました。今回学んだ知識を今後の性教育や妊婦さんへの健康指導で活かしていきたいです。

銀杏アラカルト

◆2・3年次保護者会 5月17日(水)～31日(水)の15日間、看護学科3年次生、生活機能療法学専攻3年次生、言語聴覚学専攻2年次生を対象とした保護者会を開催しました。コロナ禍においてその利便性が認知されたことから、本学ホームページに特別サイトを設けて配信するオンデマ

ンド形式での実施となりました。サイトには、学長挨拶、概況説明、学科長・専攻長挨拶、学外実習・就職・国家試験についての説明、大学院紹介を掲載し、多くの情報を届けることができました。なお、4年次生の保護者会は4月に対面形式で開催しています。(就職・実習支援課)